

(前唄) 何より 大事な宝物

それは 家族と知りました

⑦ 釜石あの日あの時甚句 (願い事)

あの日 あの時

見上げる 線路に よじ登り

甚句に 詠めばよ

枕木 踏みしめ 歩き出す

家も ^{いえ}職場も 流されて

夕暮れせまる トンネルを

携帯 電話も 繋がらず

壁を 頼りに 手探りで

不安と 恐怖が 渦を巻^{うず}き

一歩 一歩の 足探り

気持ち ばかりが 空回り

^{あかり}出口の 見えない その先で

生きて

たった ひとつの 願い事

生きてて

生きててと

家族の 笑顔に 会えたなら

歩き続けた がれき道

必ず 明日も 生きるから

がれきの山とは 言うけれど

だから お願い 生きていて

あの日 は がれきの谷の底

平成二十五年五月十一日 北村弘子作
唐丹へ家族を探しに行った方々の言葉より

平成二十七年二月十一日 藤原マチ子補作